



各 位

NPO放送批評懇談会

Tel. 03-5379-5521 Fax. 03-5379-5510

第 48 回ギャラクシー賞贈賞式 取材・報道のお願い

平素より当会にはご理解、ご支援を賜り、ありがたく御礼申し上げます。

さて、来る6月2日、ギャラクシー賞贈賞式を行い、48年の歴史を誇る「ギャラクシー賞」のテレビ大賞、ラジオ大賞、CM大賞、報道活動大賞を決定・表彰いたします。

当日は個人賞、特別賞、DJパーソナリティ賞も表彰されます。

志賀信夫賞の贈賞、視聴者参加型のギャラクシー賞マイベストTV賞グランプリの贈賞もございます。ぜひご出席賜り、ご取材、ご紹介くださいますようお願い申し上げます。

■日時 2011年6月2日（木曜日）贈賞式 16:30～18:30
取材受付開始 15:15、取材開場 15:30、開演 16:30

■会場 ウェスティンホテル東京<ギャラクシールーム>
東京都目黒区三田 1-4-1（恵比寿ガーデンプレイス内）〒153-8580 Tel. 03-5423-7000

■出席予定

テレビ、ラジオ、CM、報道活動部門入賞作品関係者の皆さん

各部門とも、入賞作品の中から大賞、優秀賞、選奨が選ばれ、贈賞式で発表します

福山雅治さん（テレビ部門個人賞）

NHK 大河ドラマ「龍馬伝」、NHK スペシャル「ホットスポット 最後の楽園」の出演

- ・各部門の入賞作品は別紙一覧をご参照ください
- ・サプライズゲストが登場する場合があります

★取材要領は別紙をご覧ください。取材をご希望の場合は、必ず事前にお申込みください。

★6月2日当日の場合は、現地に直接ご連絡ください（TEL. 03-5423-7693 6月2日限りの特設番号）。

NPO／特定非営利活動法人 放送批評懇談会

〒160-0022 新宿区新宿 5-10-14 中村ビル 2F Tel. 03-5379-5521 Fax. 03-5379-5510 kondankai@houkon.jp <http://www.houkon.jp>

本件担当＝久野（くの）



第 48 回ギャラクシー賞 贈賞式 取材要領

2011年6月2日（木曜日）

ウェスティンホテル東京「ギャラクシールーム」

取材受付 15：15、取材開場 15：30、開演 16：30

取材要領

■ギャラクシー賞贈賞式の取材をご希望の方は、申込書に必要事項をお書き込みのうえ、ファクスでお申し込みください。事前にお申込のない取材はお受けできません。

■スペースの都合により1紙／誌につき1人（カメラ別）、1番組につき1クルーでお願いします。

■撮影希望者（スチール、ムービーとも）は、15：15までに取材受付にご集合ください。（カメラ位置は抽選で決定。ただし申込多数の場合は、抽選によって会場にお入りいただけない場合があります。ご了承ください。）

ギャラクシー賞贈賞式タイムスケジュール

16:30 開会、主催者挨拶

16:35 ギャラクシー賞CM部門、贈賞 「選奨」「優秀賞」「大賞」

16:55 ギャラクシー賞ラジオ部門、贈賞 「DJパーソナリティ賞」「選奨」「優秀賞」「大賞」

17:16 ギャラクシー賞報道活動部門、贈賞 「選奨」「優秀賞」「大賞」

17:30 第2回志賀信夫賞贈賞 第5回マイベストTV賞グランプリ贈賞

17:42 ギャラクシー賞テレビ部門、贈賞 「特別賞」「個人賞」

18:00 ギャラクシー賞テレビ部門、贈賞 「選奨」「優秀賞」「大賞」

18:25 閉会

第 48 回ギャラクシー賞取材申込書 Fax. 03-5379-5510

ギャラクシー賞贈賞式の取材を申し込みます。

会社名			
媒体名／番組名			
住所 〒			
担当者		Tel.	
Email		Fax.	
取材人数		スチールカメラ	あり なし
		テレビカメラ	あり なし

第48回ギャラクシー賞入賞作品一覧

[2010年4月1日 ~ 2011年3月31日]

◎志賀信夫賞

後藤 亘

◎テレビ部門

- ※映像'10「母との暮らし～介護する男たちの日々」
毎日放送
- ※「カントクは中学生」
沖縄テレビ放送
- ※BBTスペシャル「不可解な事実～黒部川ダム排砂問題」
富山テレビ放送
- ※「Mother」
日本テレビ放送網 ケイファクトリー
- ※ETV特集「よみがえる戦場の記憶」
日本放送協会
- ※NHKスペシャル 終戦特集ドラマ「15歳の志願兵」
日本放送協会
- ※ドラマ24 第20弾特別企画「モテキ」
テレビ東京 オフィスクレッシェンド
- ※ダーウィンが来た! 生きもの新伝説「アリュン・クジラと海鳥 世界一の大家結」
日本放送協会 NHKエンタープライズ
- ※「Q10」
日本テレビ放送網
- ※探偵! ナイトスクープ「レイテ島からのハガキ」
朝日放送
- ※ETV特集「枯葉剤の傷痕を見つめて～アメリカ・ベトナム次世代からの問いかけ」
日本放送協会 NHKエデュケーショナル
- ※「時代劇法廷 被告人は田沼意次」
日本映画衛星放送 パンエイト
- ※NNNドキュメント'11「夢は刈られて 大潟村・モデル農村の40年」
秋田放送
- ※ハイビジョン特集「二人の旅路～日中 激動を生きた京劇夫婦」
日本放送協会

特別賞

「相棒」

テレビ朝日 東映

個人賞

福山雅治

大河ドラマ「龍馬伝」(NHK)、NHKスペシャル「ホットスポット 最後の楽園」(NHK)の出演

◎第5回マイベストTV賞グランプリ

「フリーター、家を買う。」

フジテレビジョン 共同テレビジョン

◎ラジオ部門

- ※「J-WAVE SPECIAL RHAPSODY IN SPACE ～宇宙へ… 魅せられた人たち」
J-WAVE
- ※「ニュース探究ラジオDig」
TBSラジオ&コミュニケーションズ
- ※「この命救済に捧ぐ～カネミ油症42年 被害者たち闘いの記録」
九州朝日放送
- ※FMシアター「薔薇のある家」
日本放送協会
- ※「おじいちゃんの三池炭鉱」
熊本放送
- ※ニッポン放送ホリデースペシャル「ラストイニング 全国高校野球 県予選決勝 聖母学院対彩珠学院」
ニッポン放送
- ※HBCラジオ開局60周年記念ドキュメンタリー「インターが聴こえない～白鳥事件60年目の真実」
北海道放送
- ※「ゴールデンアワー 第一部 第二部」
エフエム沖縄

DJパーソナリティ賞

ピストン西沢

「GROOVE LINE Z」(J-WAVE) パーソナリティとして

◎CM部門

- ※NTTドコモ ひとりと、ひとつ。 シリーズ「堀北と、カエラ篇」「岡田と謙さん篇」「防水篇」他
NTTドコモ TUGBOAT NTTアド 電通 東北新社
- ※大塚製薬工場 オロナインH軟膏「手の一日篇」
大塚製薬工場 Wieden+Kennedy Tokyo ティー・ワイ・オー Camp KAZ
- ※川崎商会 企業 シリーズ「ドキュメント篇」
川崎商会 新潟博報堂 ティ・シー・ジェー
- ※九州旅客鉄道 九州新幹線全線開業「祝!九州縦断ウェブ 特別篇」
九州旅客鉄道 電通 電通九州 ティーアンドイー エンジンフィルム
- ※サッポロビール サッポロ生ビール 黒ラベル シリーズ「大人エレベーター篇」
サッポロビール TUGBOAT 大広 ライトパブリシティ
- ※サントリーホールディングス BOSS SIMPLE STYLE シリーズシンプル「連絡白A・B」「いい加減に白A・B」
サントリーホールディングス シンガタ 電通 MR DESIGN ギークビジュアルズ
- ※ソフトバンクモバイル 企業 シリーズ白戸家「出馬依頼」「墓参り」「選挙カー」他
ソフトバンクモバイル シンガタ 電通 ギークビジュアルズ
- ※東京ガス 企業「家族の絆・お弁当メール」
東京ガス 電通 ホリプロ
- ※トキワ トキワ鉛筆「伝えたい」
トキワ 中部日本放送
- ※名古屋テレビ放送 メ〜テレ企業 シリーズ「政治ニュース篇」「再放送篇」「サスペンス篇」他
名古屋テレビ放送 電通中部支社 エジソンライトハウス
- ※パイロットコーポレーション フリクション「変更の多い会社」
パイロットコーポレーション 電通 エムワンプロダクション
- ※パナソニック エボルタ「東海道五十三次」
パナソニック 博報堂アーキテクト ハット
- ※東日本旅客鉄道 MY FIRST AOMORI シリーズ「トキョー篇」「恋篇」「ねぶた篇」他
東日本旅客鉄道 ドフ 電通 一倉広告制作所 ビクト

◎報道活動部門

- ※「がん患者、お金との闘い」2007年～2011年 一連の報道
札幌テレビ放送
- ※壁画修復から見つめた 幻の画家アーニョロ・ガッティにおける一連の放送活動
テレビ金沢
- ※報道キャンペーン「堀川のキセキ～人・街・川」
東海テレビ放送
- ※NHK「北方領土プロジェクト」
日本放送協会
- ※口蹄疫発生から終息宣言までの一連報道
宮崎放送
- ※ステーションQ 年間企画「オキナワ1945 島は戦場だった」
琉球朝日放送

●テレビ部門は上記ノミネート14本から、大賞1本、優秀賞3本、選奨10本が選出されます。●ラジオ部門は上記ノミネート8本から、大賞1本、優秀賞3本、選奨4本が選出されます。●CM部門は上記ノミネート13本から、大賞1本、優秀賞2本、選奨10本が選出されます。●報道活動部門は上記ノミネート6本から、大賞1本、優秀賞2本、選奨3本が選出されます。●最終選考の結果は、6月2日(木)開催「第48回ギャラクシー賞贈賞式」で発表、表彰されます。●テレビ、ラジオのノミネートは放送日順、CMは広告主企業名五十音順、報道活動は申込社(者)名五十音順に記載。

詳しい結果は6月6日(月)発売の「GALAC」2011年7月号に掲載いたしますので、ご覧ください



ギャラクシー賞概要

◆歴史および概要◆

1963年、民放草創期のこの時期に、テレビの可能性、影響力に着目し、その発展には必ず“批評”の力が必要であると考えた評論家、研究者、ジャーナリスト、作家らの有志によって創設された放送批評懇談会。ギャラクシー賞は、志ある番組を掘り起こし、制作者たちの番組作りへの情熱に光を当てて顕彰することで現場を鼓舞し、番組の向上・発展を促すことを目的に、会の発足と同時に誕生した。民間の自主的意思を基盤として創設された放送賞の第一号である。表彰は1年単位で、今年で第48回（2010年度）。

ギャラクシーの名は、放送批評懇談会設立の核となった渋谷秀雄、内村直也、梅田晴夫そしてトロフィーをデザインしたガラス作家・岩田糸子らによって考案された。天の川、銀河の訳のほか、佳人・才子の華やかな群れという意味を持ち、放送界にきらめく才能を表すのにふさわしいものとして選ばれた。

◆賞の特徴◆

ギャラクシー賞設立時には、すでにいくつかの放送賞が存在したが、その多くは「コンクール用に盛装を凝らしたものを対象にした記念行事」（故・白井隆二）だった。白井らは、テレビやラジオが日常に根ざした媒体であることを強く意識し、年間を通じてテレビを視聴しラジオを聴いて番組を批評することを賞の大前提に掲げた。その志は48年を経た現在まで貫かれ、放送批評懇談会正会員の自主的な視聴活動が賞の土台となっている。

テレビ部門では、審査を担当する選奨委員により月評会（毎月）が開催され、月間賞が選出されている。ラジオ部門も月例会を持ち番組を論じ合う。これらの内容は毎月、月刊誌「GALAC／ぎやらく」に掲載される。こうした活動により、“放送の現在に向き合う賞”として独自の地歩を固めている。

◆賞の内容◆

テレビ部門、ラジオ部門、CM部門、報道活動部門の4部門制。テレビ部門は月間賞のほか、年2回参加作品募集を行い、両者をあわせた中から年間賞を選出。ラジオ、CM、報道活動は年2回参加作品を募集し、それに審査員の推薦作品を加えて選考し、年間賞を選出。

受賞枠は、＜テレビ部門＞大賞1、優秀賞3、選奨10、特別賞1、個人賞1、＜ラジオ部門＞大賞1、優秀賞3、選奨4、個人賞またはDJパーソナリティ賞1、＜CM部門＞大賞1、優秀賞2、選奨10、＜報道活動部門＞大賞1、優秀賞2、選奨3。ほか、周年には記念賞を設ける場合がある。

また、放送批評懇談会がNPOとなったことを記念して、第44回（2006年度）から視聴者が選考に参加するマイベストTV賞を新設した。

◆審査と表彰◆

時代性に優れ、ジャーナリスティックな感覚を持ちえていること、かつ作品として普遍的な力量を備えていることの二点が選考の柱。放送批評懇談会正会員によって組織する選奨事業委員会が審査を担当。表彰式は、毎年5月末～6月初旬に行われる。受賞者には、銀河をイメージしたガラス製のトロフィーと表彰状が授与される。



第48回ギャラクシー賞 テレビ、ラジオ、CM、報道活動各部門 2010年度の傾向と選考経過

■テレビ部門■

委員長 上滝徹也

副委員長 川喜田尚

委員 石橋さや夏 岩根彰子 小磯 亮 隅井孝雄 高村 裕 田中早苗 戸田桂太 中町綾子
松山珠美 藤田真文 吉田正樹

2010年度のギャラクシー賞テレビ部門には、上期120本、下期129本、計249本の応募が寄せられました。この例年を上回る数は、BS、CSチャンネルの新規参入を含めて、全国のテレビ局、制作者の熱意の表れだと思います。

今回、それを強く印象づけたのが東日本放送の締め切り寸前応募です。大震災の被災地局が手続きの遅れた事情を添えて、なお番組の成果を問おうとしている。この思いこそがテレビ文化の支えではないでしょうか。

応募番組249本、毎月の選考会で選ぶ月間賞44本。この中から、「入賞作品一覧」にあるような番組が、第48回ギャラクシー賞の対象となりました。

入賞のジャンル内訳は、ドキュメンタリー8番組、ドラマ4番組、バラエティ2番組です。ドキュメンタリーについては、地域問題、戦争の傷痕、人間の記録、自然の記録など、多岐にわたっています。

昨年度のように、全選奨委員が最高点といった番組はありませんでしたが、テレビ表現の多様性を反映する秀作、佳作が揃っています。

まず地域問題では、農民の思いを見つめ続ける、漁民の疑念に身を寄せる、といった地域に根差した取材の成果があげられます。次に、戦争の傷痕を次世代から問う切り口、自然の驚異を記録に残したスタッフの労苦などに、深い感銘を受けました。

ドラマについては、連続ドラマの多様な収穫に喜びを覚えます。いずれも、その人間模様がリアルに深く描かれていました。バラエティには、新旧それぞれの楽しさがあります。歴史への新しい切り口、ドキュメンタリーさながらの感動などです。

最後に、「相棒」の特別賞は、人気シリーズの座に安住することなく、ドラマの質を維持し続けている努力への敬意です。また、福山雅治の個人賞は、NHKスペシャル「ホットスポット 最後の楽園」での存在感、大河ドラマ「龍馬伝」での清冽さへの敬意です。

(上滝徹也)



テレビ部門特別賞

「相棒」

テレビ朝日 東映（2002年10月スタート）

沈着冷静な杉下右京（水谷豊）と熱血漢の亀山薫（寺脇康文）という名コンビを生んだ、いまや国民的刑事ドラマシリーズ。多彩なキャラクターの魅力はもちろん、社会問題に正面から向き合う硬派なテーマを扱う一方で遊び心に満ちた小品もうまく取り混ぜるシリーズ構成や、脚本の完成度の高さも目を引きまします。2009年からは新たな相棒役として神戸尊（及川光博）を登場させるなど、人気に甘えないチャレンジ精神も高く評価します。

テレビ部門個人賞

福山雅治

NHK大河ドラマ「龍馬伝」、NHKスペシャル「ホットスポット 最後の楽園」の出演

NHKスペシャル「ホットスポット最後の楽園」に、未知の大自然に向かうナビゲーターとして登場し、生命と地球への深い思索を秘めたまなざしで、見るものの心を彼の地にいざないました。知的な好奇心を発揮して大自然の中に立つ姿は、自然ドキュメンタリーに新しい魅力を生み出しました。もとより大河ドラマ「龍馬伝」での印象的な人物像の創出は、私たちの眼をみはらせてくれました。ともにテレビの可能性を広げる斬新な活躍であり、その等身大の存在感は私たちを魅了してやみません。

<プロフィール>

1969年2月6日長崎生まれ。90年「追憶の雨の中」でシンガーソングライターとしてデビュー。以降、音楽活動にとどまらず、俳優、ラジオパーソナリティ、フォトグラファー、音楽プロデューサーとしてさまざまな分野で活躍。代表作に「IT'S ONLY LOVE」「HELLO」「桜坂」（ミリオンセラー）など。「長崎ふるさと大使」。「龍馬伝」で坂本龍馬ゆかりの地における観光客誘致に大きく貢献したとして、2010年「第2回観光庁長官表彰」受賞。「福山雅治のオールナイトニッポンサタデースペシャル・魂のラジオ」（ニッポン放送）で第40回ギャラクシー賞奨励賞受賞。現在、2年ぶりの全国ツアー「ザ・ライブ・バング」で、全国18カ所、52公演中。テレビ、ラジオは「ホットスポット 最後の楽園」（NHK）、「福山雅治のオールナイトニッポンサタデースペシャル・魂のラジオ」（ニッポン放送）、「福山雅治のSUZUKI TALKING F.M.」（TOKYO FM）に出演中。



■ラジオ部門■

委員長 桜井聖子

副委員長 高瀬 毅

委員 石原信和 木原 毅 黄 莉香 近藤倫章 さらだたまこ 武田三千代 田代勝彦
塚本 茂 原 きよ 深井教雄 ペリー荻野

応募作品は、58本と僅かだが前年度を上回る応募があった。ラジコの始動、ツイッターやユーチューブによる可視化、スマートフォンなど、最も先端的なデバイスの中に組み込まれるなど、ラジオを取り巻く環境が大きく変動し、東日本大震災においては機動力と役割が再び見直された。ラジオはその姿を変化させると同時に広がった可能性の中で、送り手側の力が試される時代になったと感じるなか、入賞作品の最終選考となった。

生ワイド部門Ⅰ・Ⅱの応募は13本。パーソナリティ力と訴求対象を明確に意識した番組が高い評価を受けた。ネットメディアとの連携や事業としての取組みが評価された番組もあったが、日常に寄り添うメディアとしてワイド重視となった。最終的に地域密着スタイルを保ちつつ、被災地FM局の声をリスナーに届けた「ゴールドエンアワー」（エフエム沖縄）と、セクシャルマイノリティを取り上げた「ニュース探究ラジオD i g」（TBS）が入賞。

音楽&エンタテインメント部門の応募は12本。音楽に特化した番組は少なく、如何に楽しませるか、エンタテインメントショーとしての企画番組が目立つ。その中で、宇宙空間での初DJなど新たな挑戦をした「宇宙へ…魅せられた人たち」（J-WAVE）と、架空の野球実況中継という試みと音声にこだわった演出に称賛の声が集まった「ラストイニング」（ニッポン放送）、いずれもチャレンジ力が光った番組が入賞した。

ドラマ部門の応募は15本。下期に応募が倍増し、ラジオドラマの復権を感じさせた。朗読ドラマやラジオミュージカルといったチャレンジ派と正統派とで激戦となった結果、チャレンジ派は評価したうえで次に期待を残すことになり、ドラマの王道を示した「薔薇のある家」（NHK）と歴史的事実を記憶に残した社会派「おじいちゃんの三池炭鉱」（熊本放送）が入賞した。

報道・ドキュメンタリー部門の応募は18本。地元局ならではの問題意識を持って丹念な取材力と記者の視点の良さが光った番組が肩を並べ、選出は困難を極めた。札幌で起きた白鳥事件関係者の60年の軌跡を辿るドキュメンタリー「インターが聴こえない～白鳥事件60年目の真実」（北海道放送）と、現代に繋がる事実を抉りだし社会的にひとつの切り口として一石を投じた「～カネミ油症42年被害者たち闘いの記録」（九州朝日放送）が抜け出した。また、震災に関連した報道・ドキュメンタリー作品の応募はなかった。

（桜井聖子）



ラジオ部門DJパーソナリティ賞

ピストン西沢

「GROOVE LINE Z」(J-WAVE)のパーソナリティとして

東日本大震災直後の『みんなの震災体験』をテーマにした放送では、ラジオの役割をふまえ、個人に寄り添うメッセージ性を持って話を進める展開力を発揮、伝え手としての新たな魅力を見せました。しかも、軸のぶれない自分らしさのバランスを保ち、希有なパーソナリティの力量を感じさせました。ラジオをメインフィールドに活躍された経験を生かし、今後も振れ幅いっぱい“暴走”し、ラジオを一層面白く、元気にするピス兄に期待します。

<プロフィール>

東京生まれ。大学在学中からクラブDJとして活躍。過去に多くのダンス・ミュージックやリミックスを手がけている。ダンス☆マン&バンド☆マンのリーダーでもあり、モーニング娘の一連のヒット曲を制作。クルマ&レース好きとしても著名。

現在、J-WAVE『GROOVE LINE Z』(月～木曜日 16:30～20:00)、『BRIDGESTONE DRIVE TO THE FUTURE』(日曜日 20:00～20:54)出演中。



■ CM部門 ■

委員長 五井千鶴子

副委員長 稗田政憲

委員 入江たのし 鈴木ゆかり 田家秀樹 田中典子 谷岡理香 本庄雅之 丸茂 巧
茂出木龍太 諸橋泰樹 山川浩二

3月11日以降およそ2週間、すべての放送は災害地からの報告と原発関連のニュースで埋め尽くされた。メディアは悲惨な状況と放射能の恐怖を刻々と伝えていた。ドラマもバラエティも、ビジネスと直結するCMも、テレビのみならずすべての媒体から消えた。

そんな非日常の日々を経た1か月半後にギャラクシー賞の選考会は開かれた。すでに被災地以外は普段の生活を取り戻し、大多数のCMも復活されていたとはいえ、応募作品のリストを見るまでは若干の不安があった。だが、下期だけで136本、通年では258本（シリーズも一本としてカウント）もの応募があった。

最終的には前期ノミネート作から6本、後期から7本の入賞作品が選出されたのだが、その多彩さ、メッセージの力強さに感激した。見ている者に感動をくれる。元気をくれる。励まされるといってもいい。テレビCMの底力をあらためて知った。

入賞作品をご紹介します。

木村カエラ、渡辺謙らがケータイになって堀北真希、岡田将生らに寄り添うNTTドコモ。
手の存在に光をあて、ドキュメンタリータッチで描いた大塚製薬・オロナミンH軟膏。
地元の人々に突撃インタビューをこころみ、ナマの声が「和」を感じさせた川崎商会。
鹿児島中央から博多まで、沿線の人々を巻き込んでカメラがひた走った九州旅客鉄道。
エレベーターの階数は年齢、含蓄のあることばに妻夫木ともども頷くサッポロ黒ラベル。
山崎務、松山ケンイチ競演。「いい加減にしろ～いボス」が快調のボスシンプルスタイル。
選挙に打って出た犬のお父さん。家族・マスコミ・黒幕巻き込んで大騒動のソフトバンク。
息子への献身的な愛を弁当に託し、家族の絆を丁寧に誠実にユーモア交えて描く東京ガス。
聾の映画監督が聾のボード職人の日常を描き、コミュニケーションのあり方を問うトキワ。
突っ込む、文句いう、大笑いする。テレビの前の視聴者がユーモラスな名古屋テレビ放送。
商品特性をわかりやすく、かつ、企業への風刺をきかせたドタバタが楽しいパイロット。
小さなロボットが東海道五十三次を行く。Webやツイッターもフル動員したパナソニック。
新青森開業にむけた人間ドラマ。三浦春馬とともに東北の魅力満載の東日本旅客鉄道。

はてさて、これらの作品の中から大賞はどの作品に？ しかし、いずれ劣らぬ大作、力作、労作、話題作揃いであったことは断言できる。

（五井千鶴子）



■報道活動部門■

委員長 碓井広義

副委員長 市村 元

委員 今村庸一 小田桐誠 加来由子 兼高聖雄 鈴木典之 鈴木嘉一 中村正敏
堀木卓也 宮前周司

報道活動部門の狙いは、単一の番組では完結しない、収まりきらない取り組みを評価することにある。対象となるのは同じ番組内での連続報道、複数の番組にまたがる調査報道、系列の枠を超えた地域の連携報道、イベント等とも連動したキャンペーン報道などだ。今年度の応募総数は21本。本数こそ少ないが、実に多彩な活動を見せていただいた。

札幌テレビ「がん患者、お金との闘い」は、金子明美さんというがん患者の闘病を軸に展開される4年間の報道活動。高額な新薬、適応されない保険。スタッフは医療制度の問題点を探り、30回もの放送を行ってきた。琉球朝日放送「オキナワ1945 島は戦場だった」は、その手法に注目した。65年前の沖縄戦の一日一日を取り上げ、同じ日付での放送を一年間にわたって行ったのだ。畜産王国である地元で起きた惨事を、日々のニュースや特番、また複数の番組も連動させて伝えているのが、宮崎放送「口蹄疫発生から終息宣言までの一連報道」である。

NHK「北方領土プロジェクト」では、かつて島で暮らした住民たちの証言を集めると共に、実行支配と呼ばれる現地のロシア化の現状をレポートしている。東海テレビ「堀川のキセキ～人・街・川」は、名古屋市内を流れる“ふるさとの川”の浄化を訴えるキャンペーン報道だ。テレビ金沢「壁画修復から見つめた 幻の画家アーニョロ・ガッディにおける一連の放送活動」では、地元の大学教授が参加したフィレンツェでの修復作業を伝え続けた。

最後に、審査会では震災報道について長時間の討議が行われたことを付記したい。結果的には、原発を含め現在も事態が進行中であることを考慮し、応募作の枠を超えて特定の組織や個人を顕彰することは控えることになった。あらためて震災報道全体をとらえ直す機会をもちたい。

(碓井広義)



放送批評懇談会 第2回志賀信夫賞 後藤 亘

<志賀信夫賞選考委員会>

委員長 音好宏

選考委員 橋本隆 上滝徹也 小田桐誠 藤田真文

「志賀信夫賞」は、志賀信夫前理事長の長年にわたる放送批評活動の功績を記念して創設されました。番組制作にとどまらず、放送局やプロダクションの経営、業界の新たな仕組み作り、放送メディアや視聴者・リスナーに関する研究・調査、批評活動など幅広い業績を対象にしています。広く放送文化、放送事業の発展に顕著な貢献をした個人を顕彰することが目的です。

当会の正会員から推薦候補者を募り、理事会で選任された5名の委員で構成する選考委員会が、候補者の中から最もふさわしい受賞者を決定しました。

2回目となる今回、推薦候補者は29名と初回から7名増えました。選考委員会が各候補者について、慎重かつ多角的な討議を重ねた結果、後藤亘氏が全員一致で受賞者となりました。

現在株式会社エフエム東京の取締役相談役を務める後藤亘氏は、同局の前身となる日本初の民間FM放送局・東海大学超短波放送実用化実験局（FM東海）に始まり、1970年に放送を始めたエフエム東京の発展に尽くしただけでなく、FM放送全体の普及・定着に多大な貢献をしてきました。

全国FM協議会を設立し、全国FM38局が加盟する日本最大のラジオネットワーク「ジャパンエフエムネットワーク（略称：JFN）」を育て上げ、FM放送の牽引役となりました。また、地方局の番組制作を支援し経営の安定化を図ろうと、各局出資の番組制作会社・株式会社ジャパンエフエムネットワークを設立しました。同社の誕生・稼働により安定した番組供給システムが構築され、地方FM局の健全経営に大きく貢献したのです。さらに、「見えるラジオ」の放送開始、国内FM局初の5.1chサラウンド放送の実施など、そのチャレンジングな経営姿勢も注目に値します。

そして、コミュニティFM局への出資・育成、東京メトロポリタンテレビジョン株式会社（MXTV）の再建にも手腕を発揮しました。「お祭りイベントで東京圏の夏をもっと元気に！」を目的にしたグレートウキョウフェスティバル（略称：GTF）の実行委員長を務め、街の活性化に尽力した点も評価されます。

多方面にわたる後藤亘氏の活動は、まさに「志賀信夫賞」にふさわしいと考え、ここに顕彰致します。

<後藤 亘プロフィール>

ごとう・わたる ◆株式会社エフエム東京取締役相談役。株式会社ジャパンエフエムネットワーク取締役会長。全国FM放送協議会会長。東京メトロポリタンテレビジョン株式会社代表取締役会。◆1933年福島県生まれ。55年、東北大学法学部卒業、東和映画株式会社入社。60年、FM放送草創期の東海大学超短波放送実用化試験局（FM東海）勤務。70年、開局と同時に株式会社エフエム東京入社、営業部長となる。89年、同社代表取締役社長。2005年、同社代表取締役会長。09年より同社取締役相談役。1995年、全米放送事業者連盟（NAB）第1回放送事業者国際特別功労賞受賞。2010年、旭日重光章受章。



「志賀信夫賞」について

■放送批評懇談会が2013年に設立50周年を迎えるに先立ち、会の設立から発展に貢献のあった日本の放送批評のパイオニア志賀信夫氏（現名誉会長）の長年にわたる放送界への功績を記念して、志賀信夫賞を新設することとしました。

■本賞は、これまでのギャラクシー賞が受賞対象とする番組制作という枠にとどまらず、広く放送の発展に貢献する大きな業績を成し遂げた個人を表彰します。したがって番組制作だけでなく、放送局やプロダクションの経営、番組制作の支援や放送周辺の分野、放送を中心とするメディアに関わる研究や批評活動など、幅広い分野で近年大きな功績のあった方々を顕彰し、放送の更なる発展に役立てる意図があります。

■志賀信夫 しが・のぶお／放送評論家。1929（昭和4）年福島県生まれ。53年早稲田大学大学院文学研究科修了。57年同大学講師。60年放送評論家として独立。63年放送批評懇談会理事、78年同理事長。79年共立女子大学講師。81年メディアワークショップ代表理事。85年ビデオ映像文化振興財団理事。90年多摩大学講師。NAB（全米放送事業者協会）東京セッション実行委員会会長、文化庁芸術祭審査委員、NHK演出審議委員等を務める。「デジタル時代のパイオニア」（源流社）、「BS/CS衛星放送新時代」（電波新聞社）、「映像の先駆者125人の肖像」（NHK出版）など著書多数。自薦の優れた番組の評論を記録し、関係者の証言を集めるなどした「年間テレビベスト作品」を30年にわたり出版。2003年には、テレビ評論の分野で初めて芸術選奨を受賞。



視聴者参加型のギャラクシー賞

ギャラクシー賞マイベスト^{テレビ}TV賞 グランプリ決定！

第5回マイベストTV賞グランプリ

フジテレビジョン「フリーター、家を買う。」

視聴者の評価、満足や感動の気持ちを、投票によって形にしたマイベストTV賞。「フリーター、家を買う。」には、「家族全員で楽しみつつ考えさせられるドラマ」「就活中だったのでとても励みになった」「希望が持てるような余韻が残るドラマ」「年齢、性別に関係なくどんな人が見ても何かを感じることができる」「普通の若者をリアルで自然に演じた二宮和也がすばらしい」といった投票者の声が数多く寄せられた。現代の若者が抱える問題を扱いながらも、家族との絆も真摯に描き、ホームドラマとしても見応えのある優れた作品となり、視聴者から高く評価される形となった。

解説

マイベストTV賞に参加したWeb会員は、4月24日現在で501名。これに放送批評懇談会の正会員191名が加わった計692名がグランプリ作品の投票にあたった。

グランプリは、2010年4月度から2011年3月度まで投票によって毎月決められたノミネート作35本の中から、最大3本までを投票するという方法で決められた。

62票を獲得しグランプリに選ばれたのは、フジテレビの「フリーター、家を買う。」。“就職難や鬱病など内容は重いのに、重いだけにならず見終わった後に必ず希望が持てるような余韻が残る”“母の手にハンドクリームを塗る場面は感動した”といったコメントが寄せられるなど、投票者の幅広い支持を得る結果となった。

第2位はNHKの「堂本光一 すべてはステージのために」。“エンターテイナーとしても人間的にも非常に素晴らしい成長を遂げた”“舞台にかける真摯な姿勢に感動”など、堂本光一ファンの強い支持を集めた。

第3位は日本テレビの「Mother」。“内容だけでなく脚本・テーマ・演技・演出、すべてが良かった”“久々に本気のドラマを見た”など、質の高さが多くの支持を得た。

また、NHKスペシャルが2本入っており、質の高いドキュメンタリーもしっかりと評価されている。これは投票したWeb会員が番組に対して的確な批評眼を持っていることを表しており、結果としてこの賞が視聴率を反映したような人気投票とは一線を画するものになっている。

なお、次年度も同様の方式によって年間のグランプリを決定するが、音楽番組やニュース番組やバラエティ番組などレギュラーで放送されている作品をノミネート作に盛り込むなど、新しい試みも実施する予定である。



最終投票結果

第1位	フジテレビ フリーター、家を買う。(フジテレビ)	62 票
第2位	堂本光一 すべてのステージのために (NHK)	43 票
第3位	水曜ドラマ「Mother」(日本テレビ)	38 票
第4位	NHK スペシャル「日本人はなぜ戦争へと向かったのか」①② (NHK)	34 票
第5位	第61回紅白歌合戦 (NHK)	31 票
第6位	NHK スペシャル「緊急報告 東北関東大震災」(NHK)	30 票
第7位	連続テレビ小説「ゲゲゲの女房」(NHK)	28 票
第8位	日曜劇場「新参者」(TBS)	27 票
第9位	怪物くん (日本テレビ)	24 票
第10位	金曜ドラマ「うぬぼれ刑事」(TBS)	23 票

参考

★どんな賞？

「ギャラクシー賞マイベストTV賞」は、放送批評懇談会がNPO（特定非営利活動法人）になったことを節目として創設されることになりました。NPOとして、放送と市民との橋渡しとなるような活動を強化したいと考えたからです。

放送局が送り出すすべての番組たち。果たして視聴者はどんな番組を評価し、どんな番組を愛好しているのでしょうか。放送局や放送の作り手には、視聴者の声は届きにくいのが現実です。とくに、「よかった」「素晴らしかった」といった推奨の声はなかなか形になって表れません。

視聴者の評価の声を形にしたい、視聴者の気持ちを放送局や制作者に届けたい——そんな思いから生まれたのが、「ギャラクシー賞マイベストTV賞」です。

視聴者がだれでも自由に参加できる本格的な番組賞が、日本に初めて誕生しました。

★賞の本数、対象年度

ギャラクシー賞マイベストTV賞グランプリ 1本

年度（4月～翌年3月）ごとの日本国内で放送されたテレビ番組が対象

★賞の仕組み

審査員は放送批評懇談会正会員、Web会員。選出は放送批評懇談会ホームページの投票でおこなう。

毎月の候補番組は放送批評懇談会選奨事業委員会テレビ部門が制定。

会員は毎月1回、IDとパスワードで投票ページに入室し、候補番組の中から3本まで選んで投票。

得票の多かった3本が月間ノミネート番組に選出される。（投票の経過・結果はWebで発表）

会員は毎年4月、12か月のあいだに選出された月間ノミネート番組から、年間のベスト番組1本を選んで投票。この年間のベスト番組投票で、もっとも多くの支持を獲得した番組1本が、＜ギャラクシー賞マイベストTV賞グランプリ＞に選出される。



NPO/特定非営利活動法人 放送批評懇談会

JAPAN COUNCIL FOR BETTER RADIO AND TELEVISION

■創立 NPO放送批評懇談会＝2005年5月2日（任意団体放送批評懇談会＝1963年4月）

■会勢 正会員 191名 維持会員 130社

■役員 名誉会長＝清水英夫 理事長＝音 好宏 専務理事＝橋本 隆（総務担当） 常務理事＝上滝徹也（ギャラクシー賞テレビ部門委員長）、小田桐 誠（選奨事業委員長）、藤田真文（企画事業委員長） 理事＝丹羽美之（出版編集委員長）、桜井聖子（ギャラクシー賞ラジオ部門委員長）、五井千鶴子（ギャラクシー賞CM部門委員長）、碓井広義（ギャラクシー賞報道活動部門委員長）、滝野俊一（マイベストTV賞プロジェクトリーダー）、飯田みか、石井 彰、市村 元、入江たのし、兼高聖雄、川喜田尚、隈部紀生、河野尚行、坂本 衛、嶋田親一、稗田政憲、山田健太、中島好登（事務局長） 監事＝田代勝彦 原由美子 名誉会員＝志賀信夫

■目的および事業

この法人は、広く一般市民を対象として、視聴者と放送局・放送制作者が手を携え、放送に関する公平・中立な批評活動等を行い、豊かで優れた番組の創造および放送文化の振興を図り、市民が正確で信頼できる情報を享受し、市民の生活文化の発展に寄与することを目的とする。

（１）放送に関する書籍や雑誌の出版・編集事業 （２）優れた放送に関する企画や作品の選奨・表彰事業 （３）放送に関するセミナーやイベントの企画・開催事業 （４）放送に関する調査・研究事業 （５）放送に関する団体や機関への提言事業 （６）視聴者、放送関係者との交流事業 （７）放送に関する目的を同じくする国内外の団体等との連携事業 （８）その他目的を達成するために必要な事業

■主な活動

放送の専門誌「GALAC/ぎらく」の編集・発行

放送批評の育成・振興を目的に、放送や番組を様々な角度から問題を取りあげ、研究するテレビ・ラジオの専門誌。番組批評のパイオニア。1967年創刊の「放送批評」誌をリニューアルして、97年5月創刊。

日本を代表する番組賞「ギャラクシー賞」の選定・表彰

本会創立と同時に1963年に設立された番組賞。審査には本会正会員自身があたり、月間で定例会を持つなど日常性を重んじた丹念な選考作業が特徴。毎年4月から翌3月が対象。テレビ、ラジオ、CM、報道活動の四部門制。それぞれ大賞、優秀賞、選奨、特別賞などを選出。個人賞、DJパーソナリティ賞は個人に贈られる。

視聴者参加型「ギャラクシー賞マイベストTV賞」の運営・表彰

本会がNPOになったのを記念して誕生。視聴者が誰でも自由に参加できるテレビの賞。毎月投票でノミネート番組を選び、年間で一本を選出。初のグランプリはNHK「ハゲタカ」に贈られた。

「放懇シンポジウム／放懇セミナー」の企画・開催

激変する放送事情に対応すべく、その時々に関心事をテーマに、当事者、専門家、研究者とともに放送を考える場を提供し、放送界に積極的な提案、提言を行う。